COC＋特別講義

臨床薬物動態学入門

～地域医療における臨床薬物動態の適用を考える～

講師

明治薬科大学　名誉教授
日本アプライド・セラピューティクス学会　会長　緒方　宏泰　先生

日時

12月5日(火) 5限目（16:40 ～18:10）

場所

F講義棟

薬物治療を効果的、合理的、且つ、経済的に行うためには、患者に最も妥当と考えられる医薬品を選択し、患者に適した用法用量で投与すること、更に患者の状態を妥当な時期にモニターし、薬物治療が想定した通りに進んでいるのかの判断を行い、継続か変更かの判断を行う。この様な循環の中で、状況に対する判断が繰り返される。

この数十年間、病院のベッドサイドでは、この循環を次第に薬剤師が担うこと、担えることを示してきており、医師からも高い評価を得るに至っている。今後、地域医療が主体となる状況の中で、「地域のベッドサイド」で、この循環を薬剤師が担うための新たな体制構築と共に、実際に担うこと、担えることを行動で示す段階に進もうとしている。

臨床薬物動態情報は患者に最も妥当と考えられる医薬品を選択する際の情報として、また、患者に適した用法用量の設定の際の不可欠な情報として用いられる。しかも、急性期治療が求められない状況では、血中薬物濃度の時間推移ではなく、定常状態時の平均血中濃度の値が考察の主要な対象となる。くすりの説明に、また、服薬指導にという利用に限定されてきた情報から、患者の薬物治療により直接に係わるための情報という内容への変換が求められている。

- 薬学科4年生は**全員出席**してください
- その他の学生の出席も歓迎いたします（事前申出は不要です）

本件に関する問い合わせ先

薬学科　衛生薬学講座　甲斐久博　4号棟 6F, M-611
みやざきCOC＋　磯田志乃　isoda.shino.z6@cc.miyazaki-u.ac.jp

COC＋ MIYAZAKI Your future begins at home

KUHW Kyushu University of Health and Welfare